

## 大森ふるさとの浜辺整備事業

里見勇（大田区役所太田東地域行政センター）

1974年から埋め立て第1期が始まりまして、ほんとうに奥まったところの京浜急行の平和島という駅から歩いてすぐそばの海を埋めようという企画が起こりました。この埋立事業の前に、1975年から5年間かけて、平和島の12ヘクタールの埋め立てを50億円でやりました。今は森林公園になっています。それが終わって、6年目から引き続きこの埋立事業をやろうということになっていました。そこで待たがかりまして、2000年に免許をいただいて、2005年に終わったという、ほんとうに長きにわたった埋立事業でした。

大田区は昔の漁師さんが住んでいらっしゃる大森のノリの発祥の地として、町会が全部で11ございます。自然保護団体が野鳥の会なんかは除いて3つですけれども、内川という川がありまして、内川の関係者が3団体ございます。それから漁業組合が東京都の漁連と、遊漁船業協同組合と、これは屋形とか釣り船ですね。それから地元には雑漁の連合会というのがありまして、強力な漁業組合の方々がいらっしゃいます。

この方たちとずっとお話をさせていただいて、計画が大幅に変わって、15ヘクタールの埋立事業から、埋立面積は5ヘクタールとなり、がらっと変わった形になりました。これで免許をいただいて、5年間をかけて終わりました。

始めようとしたら、ちょっと待たがかりまして、たまたまこの場所がこの地域の方々にとってもとてもいい場所だったので。その聖域に我々は手をつけて、知らずに前回と同じような形でやればいいたろうと思ってやったのですが、待たがかりまして、どうしてなんだという、我々の疑問が解けるのに20年以上かかったというところでした。

それでこの形ができ上がって、そういうことだったのかということで、この事業は何とか終わりました。その過程で、いつも思っていたこととして、現場をやる施工業者と、請負者の人たちと我々発注者をぜひほんとうの意味で対等にしたいと考えていました。

それから地元の町会の人や、自然保護団体の人たちなど、すべての人の中にに入ってほしかったのです。とにかく中に入ってみんなが現場を見てください、約束したとおりやりますよ、直したいところがあったら言ってくださいというのを組織化してやりたかったので、工事連絡会というのを作りました。

これも実は、こんなものつくっちゃだめだよと、随分言われました。全部説得して、とにかくこれをつくりま

した。やっていった過程で、最終的にどういうことが起きてくるかということ、皆さんが参加してくる中で、現場に精通していきまして、コスト意識が目覚めるんです。住民の方がいつも要求するだけじゃなくて、こっちのほうがいいのか、こっちのほうがもっと安価にできるとか、こうやってやったら、クリティカルパスはこうなるよとか、すごく精通をしてくるのです。これはとてもいいことで、納税者がこの事業を途中から進めていったということにすごく感じました。

そこで忘れちゃいけないのが漁業組合です。今回、この事業には漁業者の方々も進んで参加していただきました。この事業に参加することによって、自分たちの組合の付加価値も上がるし、東京湾の再生にもつながるといふところまで、75%ぐらいご理解いただいたと私は思っています。

竣工するちょっと前に、地元の方々と青空シンポジウム（地元の自治会、町会の方々が現場で主催されたシンポジウム）が開かれました。ここには600名弱の方が来られました。地元の17町会の方々（スタッフだけでも一町会、十数人来ていますから、200人近く）が来た方600名弱に説明しました。大変な盛況ぶりでした。こういうことができるということが改めて、この工事をやってよかったなと思っています。

今、みんなで浜辺公園をつくる会をやっています。五洋建設の佐藤所長には、地元の町会から表彰状と金一封が出ているんです。多分、彼も三十数年間の仕事の中で初めてだと思います。最初はとても嫌がりました。現場に人が入ってはいけません。事故が起きたら困ると。彼らは責任施工でリスクを背負っています。終わるときになって初めて開放して、かえってよかったなということを書いていただきました。

この現場には地元の小中学生はもちろんですが、近隣の方々、小中学生二千数百名、城南5区の方々にも来ていただきました。それから国の方々、都の方々、役所の方々ももちろん来ていただいて、事業としてはかなりうまくいったのではないかと今、思っています。

【ポイント】公共事業を最初しようと言った人はだれか。そこから開示しないと、ほんとうの情報開示にならないのかもしれない。

（本稿は、里見さんの発表をもとに事務局がとりまとめたものです）

# 大森ふるさとの浜辺整備事業

「浜辺再生における人と自然のプロセス」

## Omori 'home-shore' restoration project

### はじめに

大森ふるさとの浜辺整備事業は、大田区大森東1～3丁目(旧大森海岸)において、かつての干潟や浜辺を再生すること、防災の拠点・親水の間を整備することを目的として実施されている事業です。ここでは、「浜辺再生における人と自然のプロセス」としまして、この事業を通じた取り組みをご紹介します。

### 事業の沿革

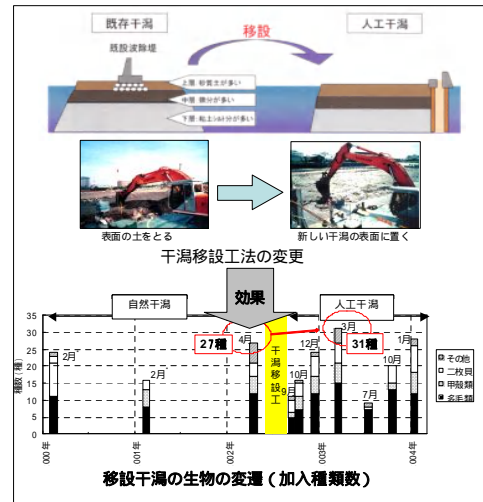
昭和56年 2月：東京湾計画第4次改訂により計画決定(14.7ha)  
 昭和58年10月：埋立計画凍結  
 平成 2年 4月：埋立計画の見直し開始  
 平成 9年 3月：東京湾計画第6次改訂により計画決定  
 平成12年 3月：埋立免許取得  
 平成12年 6月：工事着手  
 埋立面積 5.0ha 人工干潟 1.0ha 人工海浜 1.2ha  
 総事業費 60億円  
 平成16年 6月：工事しゅん工  
 平成20年 4月：(仮称)大森ふるさとの浜辺公園オープン予定



### 工事連絡会での取り組み

工事連絡会は、住民・NPO・事業者・学術経験者・施工業者が一同に集まり、事業内容や施工方法、工程を討議・検討する場として開かれ、ふるさとの浜辺についての共通認識と合意形成を得るとともに、整備方法の協議の場となりました。この場で、干潟の移設工法について、干潟に生息する生物に配慮した施工方法を取ることが決定されました。

また、ここで培った活動成果は、地元自治会・町会主催の「青空シンポジウム」で発表されました。

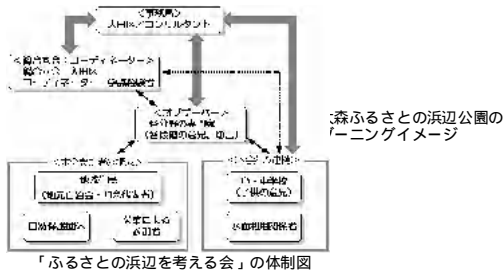


### 住民、漁業関係者、事業者が一体となって進める事業



### 浜辺公園の利用についての協議 -考える会、つくる会から育てる会へ-

浜辺公園の利用や将来の維持管理の手法について、平成14年度には「大森ふるさとの浜辺公園を考える会」において区民と行政が同じテーブルで議論が行われました。平成15年度には「大森ふるさとの浜辺公園をつくる会」にて、区民主体の公園運営のしくみや浜辺公園の基本設計内容について合意形成が図られています。



### 活動の目指すもの

工事連絡会  
 関係者・住民・NPO・事業者が、事業内容、施工方法、工程を討議・検討し、共通認識と合意形成得るとともに、改善案を協議した。活動成果を、地元自治会・町会主催の「青空シンポジウム」で発表した。

大森ふるさとの浜辺を考える会(竣工後は「つくる会」・「育てる会」)  
 工事連絡会メンバーに新たに公募した区民を加え整備方針および竣工後の利用・整備・維持管理について協議し、区民主体の公園運営を考えている。

### 活動場所について

大田区大森東1～3丁目(旧大森海岸)、工場や流通施設、および工場跡地に建設された団地等に囲まれた人口密度の高い密集した市街地。海岸線の一部は終戦直後のものが一部残存。かつてはノリ養殖発祥地であり現在でも「漁村のコミュニティ」が町会中心に色濃く残っている。

### 活動期間、頻度について

S56 計画決定(約15haの埋立)反対運動おこる  
 H9～11 工事連絡準備会 H12～ 工事連絡会  
 H14 ふるさとの浜辺を考える会によるゾーニング・イメージ作成  
 H15 ふるさとの浜辺を作る会に発展(現在も活動中)  
 H20 オープン予定

### 関係者について

地元大森地区11町内会+商店会、地元自然保護団体(3団体)、都内沿岸漁協、遊漁船組合、大田区五箇浦漁業組合連合会等各海事関係者、NPO(多摩川センター)、日本野鳥の会、学識経験者、コンサルタンツ(パンフィックコンサルタンツ)および施工会社(五洋IV佐伯IV)、大田区、埋立事業竣工後工事連絡会は終了。工事連絡会メンバーを基礎に一般公募を経て「大森ふるさとの浜辺を考える会」から「つくる会」・「育てる会」へと前進する。

### 東京都 大田区 大田東地域行政センター まちなみ整備課

(連絡先) 〒144-0047 東京都大田区萩中3丁目2番46号 電話 03-3741-3169 FAX 03-3744-8955  
 (インターネット) <http://www.city.ota.tokyo.jp/ota/kita/machinami/furusato/index.htm>

### Cityscape Creation Division, Ota City Office

(Contact point) 3-26-46, Yabunaka, Ota, Tokyo, 144-0047, Japan Phone +81-3-3741-3169, Facsimile +81-3-3744-8955  
 (Web page) <http://www.city.ota.tokyo.jp/ota/kita/machinami/furusato/index.htm>